



東京都
岡口歯科クリニック

岡口 守雄
先生

今回のアイテム

アダプトセクショナルマトリックスノ CR用マトリックス

アダプトセクショナルマトリックスで、3次元的な隣接面形態を再現

CRを上手に作り上げる為のポイントは、形・色・艶の3つに集約されるでしょう。

この3要素をいかに天然歯と同じ様に作るかが、成功のキーとなります。

この中でも特に重要な項目が、形態の回復です。単に審美的な問題に留まらず、歯本来の機能に関わっているからです。

形態の回復で難しい処置の1つが3次元的な隣接面形態の再現です。この付形には、様々な方法がありますが、2003年より私が用いている付形方法は、Kerr社のアダプトセクショナルマトリックスを用いる方法です。

従来のマトリックスは2次元的なカーブしか作れず、天然歯の隣接面形態を再現できず

にいたのですが、このマトリックスを用いる事により、3次元的な隣接面形態を再現する事が可能となりました。

前歯部の標準的な隣接面形態を作る場合には、モデルートカーブ

(緩やかな曲線)の青(高さ6.5mm)が適合し易いと思います。

又、歯の長さが短い場合には、高さの低い黄色(高さ5mm)を用いるのが良いでしょう。尚、歯間隣接面が広い場合や、歯間鼓形空隙

を閉鎖したい場合には、インクリーズドカーブ(鋭角な曲線)の紫色(高さ6.5mm)や橙(高さ5mm)を用いると良いでしょう。

本症例の様な欠損の場合、まず、歯頸部の充填から始め、舌側の近

心隆線まで付形した後、唇面の付形、最後に隣接面の付形を近心は青を用いて、遠心は黄色のセクショナルマトリックスを用いて3次元的な隣接面形態を再現しています。



術前

残存するエナメル質の量が少なく、マイクロクラックも認められる。(2004年度ケース)

術中

アダプトセクショナルマトリックスの青を用いて隣接面の付形を行う。

術後

隣接面のスムーズな3次元的な形態と、唇面・舌面も天然歯と同様の形態が再現できた。